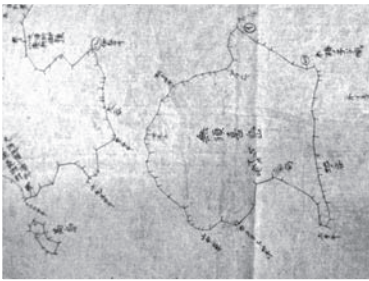


香取遺産

Vol. 54



▲大洲領沿海図
(陸月島 現愛媛県松山市)



◀伊能図の下図(陸月島)

今年6月29日に国宝に指定された伊能忠敬関係資料には、忠敬たちが測量してつくった伊能図、その原図である下図、測量隊員が描いた風景画である麁絵図などの地図以外の絵図も多く含まれています。描く範囲は、下総国など一国レベルの国絵図、一郡レベルのもの、一村レベルの村絵図など多種多様にわたります。

これらの絵図は、忠敬らが写したものもあります。が、現地の役人に提出させたものもあります。ここで紹介する大洲領沿海図もそうした絵図の一つです。

この絵図は、現在の愛媛県西部にあった大洲藩領の瀬戸内海沿岸部（現大洲市北岸・伊予市北岸）を1枚、大洲城までの肱川沿岸（現大洲市）を3枚、3つの島

（現松山市青島・怒和島・陸月島）を3枚で描く全17枚の切絵図です。

沿岸部の測線は伊能図とは異なり墨で引かれていますが、肱川沿岸の測線は朱線で伊能図と同じです。その曲がり角には針穴が空いていて、伊能図の特徴と同じで、実測した成果によってつくられた図であることは間違いありません。縮尺は、伊能図の下図との比較からおよそ6000分の1であることもわかります。

忠敬はこの地域を文化5年（1808）7月から8月にかけて測量しており、その際、地元から絵図を提出させていることはわかっています。その絵図の一部の控は現地に残っています。大洲領沿海図は、忠敬の測量に随行した現地の

測量家東寛治が忠敬の測量成果により作成して、忠敬に提出されたのではないかと推測されています。東は大洲藩士で、寛政11年（1799）に藩の絵図方に就任し、藩領の絵図をいくつか残しています。

ともあれ、この絵図は忠敬と現地の測量家との交流を物語る資料です。

このような絵図が忠敬作の伊能図とともに国宝に指定されているのは、忠敬の業績が広く全国の人々に支えられていたことが認められたからでしょう。

現在、伊能忠敬記念館では、この絵図の全点を特別展で公開しています。

問い合わせ

伊能忠敬記念館